

○ 本校の概要

本校は、本年度96周年を迎え、常に地域と密接にかかわりながら、発展してきた学校である。これからの教育を見据え、校内研究を柱に、「問題解決的な学習活動を通して」児童自ら考え、判断し、表現できる児童の育成を目指し、全教職員で教育活動を実践している。一方で基礎的な学力の定着も課題であり、授業改善を行いつつ粘り強く日々の授業を展開している。その結果、少しずつではあるが、区、都、国のいずれの学力調査においても、前年度より伸びが見られるようになってきている。学習習慣の定着と授業改善によって、今後もこの傾向を維持していく。また、生活面においては規範意識や基本的な生活習慣に関して課題が見られ、生活指導部を中心に「大3小100やくせう」の改善とその定着に取り組んできた。ここ2年で、「あいさつがきちんとできる学校」を目指し、あいさつ運動等の取り組みにより、地域からも認められる成果を得るまでに至っている。今後もこの高みから、家庭・地域との連携を強化し、規範意識の向上、基本的な生活習慣の定着に努める。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

Table with 10 columns: 大項目, 目標, 取組内容, 取組指標, 取組評価, 目標に対する成果指標, 成果評価, これまでの取組今後の改善策, 学校関係者記入欄. Rows include categories like '未来社会を創造的に生きる子供の育成', '児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます', '子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、豊かな心の育成', 'スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします', '児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり', '学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。'

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す